

第48回建築士会全国大会（愛知）報告

山本 恵和

セッション2

テーマ「自然の恵みを暮らしの中へ」

～緑を活かした都市環境の再生～

さる6月10日、名古屋国際会議場において約100名の参加者が集いワークショップを開催しました。コーディネーターは1996年よりNPOエコロジー住宅市民学校を主宰し、環境共生型コーポラティブ住宅「経堂の杜」「櫻ハウス」を企画された(株)チームネット代表取締役の甲斐徹郎氏。一般参加者を含む10名でグループをつくり、予め配られた個々の平面配置図に各々思い思いに植栽（緑）を描き入れるところから始まり、それをグループ毎に貼り合わせブロックを形成させ、さらに大きな街区図にします。個々の住宅のみならずブロック毎、街区毎の緑がどのような意味を持つのか皆で考えます。甲斐氏のレクチャーの中では体感セミナーを交え暑さと涼しさを感じることができました。隣り合う住民や地域で協力し合うことが夏の暑さをしのぎ、風通しの良い暮らしが実現できることを学びました。甲斐氏の言葉「便利さを求めすぎることが知恵を無くし暮らしにくさを作っている現在を基本的見直すことが大切である」が心に残りました。“まちに森をつくって住む”という考え方は私達の街でも快適環境づくりに活かすことができます。自然を賢く利用する知恵が今必要だと感じました。最後に街区全体を貼り合わせそれをバックに100人記念写真を撮り終了しました。エキスポーションは愛・地球博を選んだのですが、生憎の雨と人の多さで思うように見られなく残念でした。最後の日の名古屋城へ行き金の鱗に触れる事が出来たのはラッキーでした。

「屋台村」46都道府県の女性委員会（女性部会）から寄せられた「自然の恵みを暮らしの中へ」のパネルが連合会女性委員会ブースに展示され大会参加者の視線を集めました。それぞれの特色ある地域性を生かした力作ばかりで冊子にしたいとの声も上がったくらいです。北海道は“冬の恵みと暮らし”と題し雪冷房システムや高断熱、高气密住宅に蓄えの場所の確保した例、また雪とふれあう子供達の写真や冬の風物“雪・氷・あかり”の小樽、旭川を紹介するパネルにまとめ出展しました。屋台村を見たのは初めてでしたが自然環境、安心安全、省エネ、再生、次世代への住教育、ものづくり匠の技等がテーマとなりどのブースも盛況でした。

山本さんから写真が届き次第、メールで送ります。

全国大会 愛知大会に出席したその後

旭川支部 小池 かおる

私達は、博物館明治村に行った。明治時代の、
とっても、おもしろくてステキな建物が67件。
4時間しかここに居る事が(飛行機の時間の為)
できなかったので全てを見て廻るなんて事はとて
も無理。とにかく、見たかった帝国ホテル中央玄関
に直行した。旭川でも、F・L・ライト展が美術館で、
数年前にあり、(もちろん行った)写真でもチラリ
と見ていたので、本物を見る事ができるなんて(全
国大会よ、ありがとう。名古屋であってくれて。)
とてもうれしかった。天井が低くこのなんともいえ
ない雰囲気は、是非直接行って、見てきておくれ!



もう完全に観光客。ここの喫茶室でお茶をし(テ
ーブルと椅子は、F・L・ライトがデザインしたものです)
お金では買えない何かとても豊かな気持ちに
させてくれるそんな処だった。そこを後にすると、
私達は、明治30年代に発表した小説『食道楽』の中
のレシピに基づいて再現されたコロッケを食べ
またまた、明治中期に出版された料理本に基づき再
現された明治のカレーを食べ、京都市電に乗り(明
治28年に開業した日本初の市電)~明治村では昔の
乗り物に乗れます
雨に降られながらもしっかりと楽しんできた私達。
また、行きます。明治村。それと、大正村、昭和村
にも...

道東Bブロック見学会より

斜里支部 川勝 美由紀

初夏の風が気持ちよい6月26日、女性建築士8
名で、摩周湖近くにあるピュア・フィールド風曜日
を訪れました。

高齢者・身体の不自由な人、誰でもが安心して泊
まれるユニバーサルデザイン・プチホテルです。ど
んな障害にもかかわらず使用できるよう配慮されて
います。そのため、建築材料の使い分け、設備・家
具・空間まで細かい工夫がありました。とは言っ
てもデザインはシンプルにさりげなく。設備に違和感
がないように必要に応じて使用するというものです。

オーナーの方の説明を聞き、自分たちでは気付か
ない答えがここにはいっぱい見つかりました。ハ
ートビル法という法だけでは解決できないということ。
基準はあくまでも基準であって、利用者が快く使い
やすいように!限られた条件の中では無理なことも
ありますが、これからの課題だと思いました。

実際、母を介護していて、いろんな問題にぶつか
りますが、お互いが安心して過ごせる空間、幸せを
見出せる時間が持てればいいなあと考えています。
ここにはそれがあります。有意義な時間を過ごせた
こと、参加者の皆さんに感謝です。

皆さんの所にも幸せな風が届きますように!



: 右側は車椅子利用者のカウンターです。

: 車椅子に乗ったまま入浴できるシャワーキャリーを採用

道東Aブロック見学会より

大西 智子

道東Aブロックでは、釧路市内の他の団体の方々と一緒に9月1日に開業する「特別養護老人ホーム釧路北園啓生園」を見学しました。

この施設はデイサービス、ショートステイに対応した10人11ユニットの新型特養に9人2ユニットのグループホームが併設されています。

周辺環境に対する調和を考え2階建とし、外から見たときに住宅地をイメージできるよう平面計画、色、素材にも考慮したそうです。

住む家を「まち」の中に創るが設計のテーマということで、一般開放もされる地域交流スペース（和室、カラオケルーム）の他、施設の中には喫茶店、スナック、病院、浴場があり、外部には広場やパークゴルフ場も整備されるそうです。



各ユニットは、ポーチ、玄関、ホールをイメージできるよう床材の柄を変えた入口から調理配膳のできるキッチンを備えたLDKをとおり、各個室に入るといって「家」のつくりになっています。個室の区別ができるようドアが色分けされたり、表札がわりに自分の目印になるものを置くスペースを設けるといった工夫もされておりました。

参加者から「老後こういうところに住みたいな」という声も聞かれました。

使っていくうちに設計の意図とは別の使われかたに変わっていくことも多いことと思いますが、地域との交流スペースをもち、潤いのある老後を過ごすために社会参加を手助けする老人ホームとして計画されたこの施設が5年、10年後どんな「まち」になっているか楽しみです。

けんぶち「絵本の館」見学会

谷口 円

平成17年8月7日曜日に釧路町にある「絵本の館」の見学会を実施しました。

当日は暑さもピークの8月初旬でしたが、天気も良く、旭川の建築士会女性部のみならず、青年部からのご参加もいただいて、総勢20名あまりの見学会となりました。釧路町役場建設課の館野さんからの丁寧な楽しい説明を受けながらの施設内の見学を行うことができました。絵本の館は昨年6月に現在の建物が新築され、旧館から移転オープンされました。もともとは公園があった場所に建てられたそうです。延べ床面積は1798m²、構造はRC造、一部S、木造の部分があり、平屋建ての建物です。内装、外装ともに、コンクリートの打ち放し部分とガルバリウム鋼板や、珪藻土、構造用合板が仕上げに使われていたりと様々な材料がくみあわされて使用されています。

中庭を囲んで通路がぐるっと一周しており、エントランスを入ると絵本の書架が置かれた閲覧室が広く広がり、その横に「たまごのへや」とよばれる卵形のドームがあります。内装は珪藻土で仕上げられ、ドーム形状から音の反響が面白く、またその中には30mm くらいの木の玉何万個も入っている木の砂場があり、子供たちが沢山遊んでいました。大人には足の裏のつばを刺激するというので、大人気？でした。そのドームは外部の仕上げが銅版で、その貼り手間は大層大変だったというお話も伺いました。徐々にいい色に変色していってくれると思います。



また、一般閲覧室の屋上部分のテラスは星空の観察会や、おはなし会なども想定されているそうで、板張りのテラスになっており、ねっころがっての星空

観察も可能です。

ちょうど私たちが伺ったときには、絵本の原画展が展示室で開かれており、大断面集成材を使っ
てのその構造もさることながら、あたたかな原画たちにも見入ってしまいました。

絵本を見る時間はほとんどなかったのですが、45000冊もの蔵書があるそうで、一日では足りないかも、と思うような施設でした。

ぜひ、皆さんもお子様連れでぜひ。とお勧めしたいところです。

舘野さん、絵本の館の皆さん、見学させていただきありがとうございました。



全国女性建築士連絡協議会のご案内

平成 17 年全国女性建築士連絡協議会は例年 7 月に開催されますが、今年は全国大会（愛知大会）が 6 月に開催されたため、また開催地（香川）の会場の都合により 12 月になりました。

テーマ「地域と共生する居住環境づくり」
～身近な素材を未来へつなぐ～

居住環境を構成する建築資材を地域の資源や身近な素材から見つめ直し、未来へつなげ、地域に貢献できる建築士のあり方を考えます。

開催日時 平成 17 年 12 月 2 日（金）3 日（土）

開催場所 香川県高松市サンポート 2 番 1 号

サンポートホール高松「第 1 小ホール」

シンポジウムでは四国在住のパネリスト 5 名を迎え様々な素材の伝承と活用についてパネルディスカッションを行います。

分科会は、A 分科会「素材の伝承」B 分科会「減災のまちづくり」C 分科会「健康住宅」D 分科会「建築物の再生活用」E 分科会「歴史的な建物とまちなみ」F 分科会「子供と住環境」G 分科会「高齢社会」H 分科会「集まって住む」と多彩なテーマを予定しています。地域活動の発表や情報交換の場となり年々参加者が増え活発化しています。男性、女性問いませんので興味のある方、ぜひ御参加ください。

女性委員会

冊子「子どもをはぐくむ住まいづくり」について

早川 陽子

子どもと建築部会は平成 11 年度より、住まい手の視点や、北の暮らし方と住まいづくりなどについての調査・検証、報告・提案を実践活動「子ども・家・HOKKAIDO」として行ってきました。

その成果と提案「子どもをはぐくむ住まいづくり」の考えを「**これからの住まいづくりに関わってゆく人たちに向けて発信したい!**」との会員の強い気持ちから、平成 15 年度より編集作業を重ねに重ね、ようやく冊子の「原稿」が完成いたしました。内容については、前号で本間編集委員長から紹介がありますように、先進的な取り組みとなっています。

少子社会の今、子どもの未来のための推進事業は、最もホットな分野で、行政、民間、学術の各界でも展開を模索・企画している段階にあります。現在、私たちは他に先駆けて普及活動を展開できる状況にあり、**さらにこの考えを普及させていく活動を目指して** 冊子の活用方法を検討中です。



たとえば、各支部建築士会の事業のひとつとして「建築士の日」に「子育て期の住まい講座」を開催し、その資料として冊子を活用してもらう。

・行政と連携の可能性...子育てを視点においた行政の各種施策に冊子を活用してもらう...などなど現在進行中の企画では

・地域の子育て支援活動とのコラボレーション
「子どもおもちゃフォーラム」(2005.11/22、23、札幌市内)
(主催：NPO 法人 北海道子育て支援ワーカーズ)
参加協力：「子どもをはぐくむ住まいづくり」の紹介印刷は次年度を目標にしています。
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。